

ドイツのスポ少団員交流

7人が登米市滞在で視察



米谷工高部員の指導でアーチェリーに挑戦しました（東和総合運動公園）



7月30日に迫町内のホテルで開かれた歓迎パーティー。ドイツ訪問団7人（前列）と、アトラクションで大黒舞を披露した東郷小（南方町）の児童たち

国際経験豊かな指導者を育成するため、日本とドイツ両国のスポーツ少年団のリーダーが互いに相手国を訪問する「日独スポーツ少年団同時交流」。今年40回目となる交流で、ドイツのスポーツ少年団員が登米市にホームステイし、市民との交流や視察で日本文化に親しみました。ドイツからは今年

125人が訪れ、全国各地で交流、県内での受け入れは登米市だけです。

登米市を訪問したのは17から22歳までの学生と団長の7人。一行は7月30日から8月3日まで市内に滞在し、市内の施設を視察したり、中学校や高校で剣道やアーチェリーなどを体験したりしました。

7月20日に名取市で開かれた「太鼓祭inなとり・第1回北日本大会（日本太鼓協会主催）」で、組太鼓ジュニアの部に出場した登米春嵐太鼓（片岡大助代表）が優勝しました。登米春嵐太鼓は、中田町のさくら幼稚園を卒園した小学生による和太鼓演奏グループです。大会では観客・

審査員の投票の結果、栄冠を勝ち取りました。

優勝した登米春嵐太鼓は、10月27日にさいたま市大宮で開かれる全国大会に出場します。メンバーの一人、佐沼小6年の角田大樹君は「これから音をそろえる練習をして、全国優勝を目指します」と力強く話していました。



北日本大会優勝と全国大会出場の報告に市役所の布施孝尚市長を訪れた登米春嵐太鼓のメンバーと関係者（7月30日）

太鼓祭・北日本大会で優勝 春嵐太鼓、全国大会へ

夏休みの学習を支援

市内13カ所 大学生ら指導

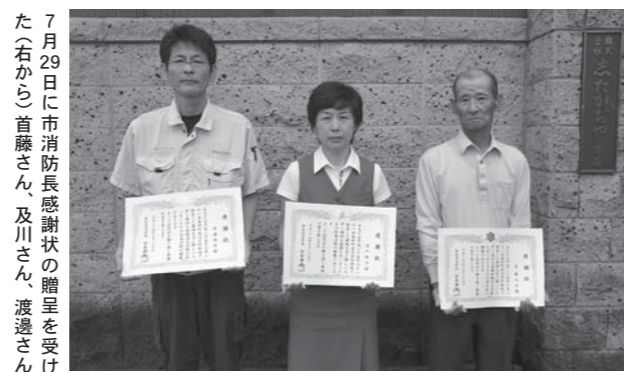
市教育委員会では、夏休みにおける児童・生徒の自発的な学習を補助するため「夏休み学習教室」を実施しました。実施したのは、7月29日から8月23日まで15日間。迫公民館や登米公民館など市内13カ所で、退職教員や地元の高校生、大阪教育大や宮城学院女子大の学生などが指導に

当たりました。

「それぞれの子どもへのペースに合わせて声掛けしています」と話すのは、迫公民館で指導に当たった岩崎千代さん（迫町光ヶ丘西）。佐沼小4年の米谷優花さんは「国語と算数を優しく教えてもらって良かったです」と笑顔で話していました。



子どもたちのペースに合わせて、予習や復習、自由研究などをサポートしました（8月9日・迫公民館）



7月29日に市消防長感謝状の贈呈を受けた（右から）首藤さん、及川さん、渡邊さん

初期消火功労で感謝状

東和の首藤さんら3人に

建物火災を早期に見出し、通報、初期消火活動で被害を最小限に食い止めたとして、東和町米川的首藤元夫さんと及川睦子さん、中田町浅水の渡邊政彦さんに対し、菅原輝雄消防長から感謝状を贈呈しました。

火災は、6月21日に東和町米川字町地内で発生。現場を

バイクで通りかかった首藤さんが住宅の軒下から出ている煙を発見、近くの「株志たかぢや」に駆け込み119番通報を依頼しました。同社の及川さんは119番通報し、渡邊さんは社用車で現場に向かい、消火器を火元に噴射し消火しました。この火災によるけが人はいませんでした。

学校資料から歴史探る

宮城学院女子大と博物館



学校に保管している学校日誌や公文書などを調査する宮城学院女子大学の学生（写真は南方小学校）

市歴史博物館では、宮城学院女子大学人間文化学科の大平聡教授（歴史資料学）のゼミと共同で、今年の6月から市内の小中学校で保管している学校日誌や学簿、公文書などの資料を調査しています。戦前・戦中の小学校は地域とのつながりが深く、学校日誌にはそのような日々や地域の様子が記されています。また、戦後に誕生した新制中学校には戦前・戦中の青年学校の学校資料が引き継がれている事例もあります。当時の教育や学校の様子だけでなく、地域の歴史を掘り起こす調査は、浅水小学校（中田町）から始まり、市内各小・中学校で進めていく予定です。